

聴取した意見・回答の報告と対応一覧表

開催日時	令和 7 年 2 月 7 日（金） 19時00分 ～ 20時30分	会場	赤目市民センター
相手方名	赤目まちづくり委員会	参加人数	18 人
出席議員	幸松孝太郎 阪本忠幸 柏元三 藤川美広		
	質問・意見	懇談会等での返答	対応
1	高齢者の地域雇用について 赤目は観光といってもピンとこない。雇用問題も考えてほしい。 現在の市や議会の考え方を聞かせてほしい。	行財政改革プランにも記載があるが、今後市は地域活性化起業人、地域おこし協力隊など、外部人材の登用に力を入れる考えがある。 集落支援員制度の積極的な活用も含まれており、この制度では市民センターの事務員も登用できる。 地域の現状など市と打ち合わせをしてほしい。 市民センター事務員の年齢制限についても検討してほしい。	■ 当日の返答どおり
2	少子高齢化が進み、農業ができる住人が減っていて、業者委託が増えている。 農業振興地域であるため農地転用も困難。商業用地への転用も含めて考えてほしい。 市は農業についてどう考えているのか。	市は農業を守るため、地産地消の推進や有機農業を促進するためにオーガニックビレッジ宣言をした。 認定農業者や認定有機農業者を市全体で増やすことが重要であると考えている。	■ 当日の返答どおり
3	農地以外にも後継者不足や環境保全をどうするかなど問題は多い。 市が農業をメイン産業として捉え、早急に対策をする必要がある。	市と地域が一体となって農業を守ることが大切。 現状把握と課題抽出を進め、順次対応していく必要があり、そのためにも地域計画を策定していただき、早急に方針を決める必要がある。	■ 行政側に伝える
4	専業では食べていけないため、兼業農家がほとんど。高齢者が元気に働けるまちづくりをしてほしい。	市が農業をどう考えているかが重要であるが、施設園芸でないと採算が取れないのが現状。 また、施設園芸でも若い人は成功しているが高齢者の成功事例は少ないと認識している。 地域とどのように連携していくかが今後の課題であると考ええる。福祉関係の費用（民生費）が増加しているが、元気な高齢者には予算がついていないのが現状。 健康人口を増やす施策が必要であると考ええる。	■ 当日の返答どおり

	質問・意見	懇談会等での返答	対応
5	丸山千枚田は都会の人がオーナーとなって農地を守り、オーナーは年二回程度現地へ出向くが、その間は地域住民が守っている。名張市でもこの取組は必要ではないか。同時に空き家を市がリフォームして住居提供を含めて提案するなど対策が必要。	大変参考になるご意見を聞かせていただいた。現在市は第3次農業マスタープランを2027年度までの10ヶ年計画で策定しており、計画に基づき施策展開を行っている。次期計画に向けて、オーナー制度等いただいたご意見や、空き家を活用して住居提供を行う提案も含めて行政に伝える。	■行政側に伝える
6	耕作放棄地がソーラーパネルになってきている。赤目四十八滝に向かう道中にもソーラーパネルが設置されていて景観が損なわれている。市として規制するなど対策はできないのか。	赤目地域も人口減少に伴い農家が減少しているが、耕作放棄地は減っている。地域で農地を守る取組によるものだ認識している。農用地以外の個人所有地を市が規制するのは困難であるため、地域計画の策定を進めながら地域で農地を守る必要があると考える。	■行政側に伝える
7	赤目四十八滝や赤目小町には力を入れているが、滝に行くまでの道中が何もない。特に玄関口となる赤目駅がさみしすぎる。滝までの道中を明るく、赤目全体が活性化するように協力してほしい。	地域の皆さんのご協力により、赤目四十八滝の入込客数は増加している。市全体の宿泊者数、旅行単価も増加している。	■当日の返答どおり
8	宿泊者が増えているとの事だが、どんな宿泊者が増えているのか。数値の分析をしなければ意味がない。	令和6年度3月末で集計し、最終的な数値が出てくるので一定明らかになると思われる。	■当日の返答どおり
9	滝周辺で宿泊すると3万円を超え、ルートインだと1万円程度で宿泊できる。安い方に泊まりたいのは当然。滝周辺に安価で泊まれる宿泊施設を建てる必要があるのではないか。	外国人の金銭感覚は日本人と大きく異なる。インバウンドも様々だが、どのように誘致するか工夫が必要だと考える。	■行政側に伝える
10	無人駅では初めて来た観光客に案内もできない。「旅ステーション」では38名のボランティアが当番制で、バスがない時などの案内をしている。土日だけでも臨時駅員を置くなど、対策を考えてほしい。	地域雇用と同様に外部人材登用制度を活用して実現できないか検討する必要がある。	■当日の返答どおり
11	赤目地域は市内で3番目に高齢化が進んでいて、人口減少も止まらない。他の自治体が実施しているような移住補助、移住促進の施策はあるのか。	子育て世帯に対する補助や空き家対策として上限100万円の補助はあるが、補助だけでは移住人口が増えていないのが現状で、市は関係人口を増やしていきたいと考えている。	■当日の返答どおり
12	赤目駅の整備、近鉄線沿いの狭い通路の整備など、関係人口、交流人口を増やすために必要な方策があると思う。	新しい事業を実施するには財源が必要で、市はふるさと納税で10億円の収入を目指すなど、新たな取組を実施している。	■当日の返答どおり

	質問・意見	懇談会等での返答	対応
13	産科の問題 分娩施設がなくなることへの対応は宿泊費や交通費の補助だけなのか。 産科がないまちに子育て世代も移住しない。人口は増えず、減っていく一方だ。	議会としても宿泊費や交通費補助だけでは不十分であると認識しており、継続して議論している。 市立病院での産科開設の話もあるが今すぐは困難だと考える。 「産み育てるにやさしいまち“なばり”」を守らなければならない。	■当日の返答どおり
14	新川地区の下水道問題が解決していない。 49年も経過して未だ公共下水になっていない。 南部処理場建設計画もなくなっていないと市は言っている。	市は下水道マスタープランに基づいて整備を進めており、現在は美旗地域を整備中である。	■当日の返答どおり
15	(ご意見) 赤目の線路は近鉄の中でも一直線が長い ため、撮り鉄が多く来る。 線路脇の農地に黒いシートを張っただけでも 景観が損なわれて残念だという声がある。 田舎には田舎の景色が残っているほうが 良い。		

議会からの返答は令和7年2月7日時点のものになります。